様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００９９７

研究課題名（和文）初期近代における世界の多様性の認識――日中欧の比較研究

研究課題名（英文）Recognition of the diversity of the world in the early modern period: A Comparative Study of Japan, China, and Europe

研究代表者
川出　良枝（Kawade, Yoshie）

東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授

研究者番号：１０２６５４８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：航海術の発展により、世界の諸地域における多様な文化の存在が知られるようになったとき、これを理解するためにいかなる思想が生み出されたのか。世界の多様性の認識がもたらした知の地殻変動を、初期近代の日本･中国･仏を中心とするヨーロッパ思想を対象とし、比較思想史的に明らかにした。その成果は、第一に、多様性を説明する理論としての風土論（フランス）と水土論との比較、および歴史的経路依存性の発見、第二に人間を多様な存在とみるか、同一の存在とみるかという人間論とそれがもたらす統治論との関係の多様性の分析、第三に18世紀フランスにおける中国理解に影響を与えた『中国全誌』の分析である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、日中欧のそれぞれにおいて、世界の多様性の認識に関する包括的な分析を行い、既存の研究水準を刷新する。その上で、本研究が誇る最大の学術的独自性は、日中欧の分野における精緻な個別研究を基盤としつつも、その知見を3名の研究者が相互にフィードバックすることにより、日中欧の思想を対等な関係で比較し、単独の研究では得られなかった視点を共有し、真に内実のある比較思想研究をめざすという点に存する。

研究成果の概要（英文）：With the development of navigation, the existence of diverse cultures in various regions of the world became known. This study clarifies the process of intellectual transformation brought about by the recognition of the diversity of the world, using a comparative historical perspective, focusing on early modern Japanese, Chinese, and European thought, particularly that of France. The results of this study are, first, a comparison between the theory of climate (France) and the theory of suido (East Asia) as theories explaining diversity, as well as the discovery of historical path dependence; second, an analysis of the multiple relationship between the two major theories of human nature (the theory which emphasizes human diversity and that which emphasizes the homogeneity of humankind) and the theories of government; thirdly, an analysis of the " Description de l'Empire de la Chine " by Du Halde that influenced the French understanding of China in the 18th century.

研究分野：西洋政治思想史

キーワード：多様性　比較思想　フランス　日本　中国　儒学　江戸思想　モンテスキュー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

世界的な規模での諸地域、諸国家の交流の拡大は、相互理解と文化の共有をもたらす一方、誤解や軋轢、さらには衝突をもたらすこともまた事実である。本研究は、初期近代、すなわち、おおむね 17 世紀から 19 世紀の初頭にかけての時代を分析の対象と定めた。というのも、この時代において、航海術の発展がもたらした地球大の交流の蓄積がいわば反省期を迎え、これまで得た知見を総括するという気運が高まったからである。世界が自然的にも文化的にも多様な要素によって構成されるという認識が定着し、それをめぐって様々な考察が展開した。こうした多様性認識について、日本、中国、フランスを中心とするヨーロッパという 3 つの地域の比較研究として遂行することにより、それぞれの地域における理論の意義を明らかにできるのではないかと考えた。それぞれの地域における 18 世紀を中心とする初期近代の思想研究において実績を積んできた研究者を組織し、それぞれが自己の専門とする分野における世界の多様性についての認識を討究し、それを絶えずフィードバックすることで、専門領域における知見を相対化し、あわせて、比較の精度を高めていくことができるのではないか、というのが本研究を立ち上げた当初の背景であった。

２．研究の目的

航海術の発展等により、これまで相互に交流することのなかった地域における多様な文化の存在が知られるようになったとき、これを理解するためにいかなる思想が生み出されたのか。世界の多様性の認識がもたらした知の地殻変動を、初期近代の日本･中国･仏英を中心とするヨーロッパ思想を対象とし、比較思想史的に明らかにすることが本研究の目的である。

３．研究の方法

本研究は、すでに専門分野で研究蓄積のある研究者 3 名からなる組織である。多数の研究者を擁した比較研究ではなく、あえて、少数の研究者の間で比較研究を行うという点に、本研究の方法論的関心が含まれる。というのも、本研究は、個別研究と平行し、析出された論点を固有の歴史的文脈をふまえて相互に比較し、単なる図式的整理を越えた内在的理解に基づく比較思想史として完成するという方法をとるものだからである。比較研究の場合、文脈の違いを無視した表層的な比較になりかねないという弱点があり、それを克服するためには、それぞれの専門領域における実証的で精緻な研究をふまえた上で内在的比較を試みる必要があると判断した。いわば、専門研究を土台とした比較の試みとまとめることができよう。

４．研究成果

研究成果は、3 つの柱からなる。

（1）世界の多様性を説明する論理としての風土論への着目

モンテスキューの風土論の重要性をあらためて指摘した。非ヨーロッパ圏からの情報が蓄積するにつれ、従来の普遍と特殊という単純な図式に見直しが迫られる。風土論はオリエントの専制の合理性の確認という言説を生んだが、ケネーは逆に中国を高く評価した。その際、モンテスキューの風土論的枠組みも併せて批判される。多様性を生み出す要素としての自然的条件の違いに着目したモンテスキューの風土論（およびその批判者の論理）が分析された。興味深いことに、東アジアにおいてもそれと類似した「水土」論が存在する。中国における水土論を受けた江戸期の儒学者たちによる「水土」論、また、一面ではそれと共通する問題設定を有する「風俗」論や「理勢」論の重要性にも目を向けた。このことは、モンテスキュー等の風土論は、同様に「習俗」という彼の重要な関係とあわせて考察すべきであることも判明した。この概念がスコットランド啓蒙に流れ込むと気風（manners）という概念となり、環境道徳論へとさらに展開していった点をも明らかにした。すなわち、風土から気風へという流れである。

また、自然的・物理的環境への注目と並行して、歴史的な経路依存性を足がかりに国や文化の差異を説明するという議論も発掘した。特に、中国本土における明清交替（異民族支配体制への移行）やアヘン戦争という衝撃的な事件が、儒教文化圏に属する日本や朝鮮でどのように受け止められ、どのような説明がなされ、それをふまえた提言が行われたか、という問題は、地理的な説明原理だけに注目するのでは不十分であることを示している。思想・文化的には、「華夷変態」として認識された明清交替は、朝鮮王朝や日本において、いわゆる小中華主義など、一種のプロト・ナショナリズムとでも言うべき、国家意識や民族意識の台頭を促した。他方、清朝考証学に対する、いわゆる「西学」（自然科学を中心とする西洋文化の知見）の影響も指摘される他、日本においては、蘭学を媒介とした西洋知識なども、「中華」の相対化に対して、一定の促進力を有したことが認められる。

（2）人間は同質的存在か、多様な存在かという問題枠組み

本研究においては、朱子学が日本の江戸時代に定着していった過程について、それが江戸の中

期以降であり、むしろそれ以前は、伊藤仁斎の思想を承けた、荻生徂徠の徂徠学などが強い影響力を行使し、朱子学が定着したのはその後であったという流れを前提としている。その場合、徂徠や仁斎が人間の多様性を強調し、人間の同質性を前提とする朱子学と対比の関係にあったことが重要である。こうした違いが、徂徠における礼教秩序による個人のコントロールという統制的な理論を生み出したことに注目した。また、江戸時代の統治の実態として「仕置き」という独特な概念があることにも注目した。もちろん「礼教」はこうした抑圧的体制のみを導くものではない。中国における多様な「礼教」観も踏まえる必要がある。中国においては、明清時代を通じて、いわば「礼教」化とも言うべき趨勢が、思想内在的にも、また、基層社会への浸透や汎化という実体的な側面においても、大きな進捗が見られたが、それは必ずしも王朝体制側の主導によるものというより、地域社会の内部から台頭した、一種の「秩序」志向の現れでもあった。近年では、そうした地域社会の成熟が、後の辛亥革命などに繋がるという見方もある一方で、価値観の同質化という負の側面も伴っていたことが指摘できる。

とはいえ、徂徠に代表される江戸思想および江戸の統治構造の実態は、ヨーロッパとの比較の上では興味深い事例である。というのも、ヨーロッパにおいては、それはホッブズの政治哲学に近似するものである。ホッブズは多様な情念をもつ個人が自然状態を戦争状態に陥れ、それを克服するのは主権国家による学説の統制であるという結論を導き出した。しかしながら、ホッブズ以後の 18 世紀思想においては、人間が習慣や環境によって多様な情念を育み、その多様性を開花させることが文明化をもたらすという議論が提起される。そこでは、統制ではなく、一定の範囲内での自由放任を是とする政治理念が生み出される。日本社会においても、18 世紀になると商品経済の発展がみられ、海保青陵をはじめとする論者が市場に着目し、人間の多様性を前提とする自由な秩序を構想するに至る。

他方、中国では、清代中葉に厳格な朱子学的倫理を批判した戴震などにあっても、人間の本性をほぼ同質なものと見なす考え方が、根強く残る一方で、商品経済の進展などを背景としながら、欲望肯定的な倫理を模索しつつ、そうした個々人の相互での欲望の調停、更には合意形成や共生のための理論が追求されるなど、一面で、同時代のアダム・スミスなどとも類似した、哲学や思想が表象されるに至っている。

このように個人の多様性を認めるという人間論がどのような政治秩序の構想と結びつくかについては、様々なパターンがあることが解明されたのは重要であると思われる。

（3）18 世紀ヨーロッパにおける中国認識のための媒体への着目

最後の成果として、フランスを中心とする欧州における中国イメージの形成についての再考があげられる。上で述べた多様な東アジア圏の思想のダイナミズムを理解した上であらためてその中国観を検討すると、当初想定した以上の多様な中国像を発見するにいたった。モンテスキューは中国を帝国ととらえ、その専制を批判する一方で、広大な版図を巧みに統治するその統治の技法に肯定的な評価も下している。老子の一節を用いながら自由を定義している。モンテスキューに限らず、フランス 18 世紀における中国認識が豊かな内実を備えた高い水準にあったが、これには、デュ・アルドが編集した 4 巻本『中国全誌』が寄与した部分が大きい。そこには、簡単な紹介文を添えた中国の文献からの翻訳（抄訳を含む）もあり、この中国についての百科全書ともいえる作品が、この時期のフランスの中国への関心の高まりを支えていることが解明された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Takayuki Ito	４．巻 29,2
２．論文標題 Yuxin Lu, Polity, Civilization and Nationalism: Political Thoughts in Tokugawa Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Chinese Historical Review	６．最初と最後の頁 142-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川出良枝	４．巻 61
２．論文標題 秘密か公開か―投票方法と民主主義	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Voters	６．最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊東貴之	４．巻 43
２．論文標題 「礼教」の浸透・汎化とその展開―中国を中心とする近世東アジアの事例から	５．発行年 2022年
３．雑誌名 中国思想史研究	６．最初と最後の頁 103-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊東貴之	４．巻 Winter Issue
２．論文標題 評呂玉新「政体・文明・族群之弁―徳川日本思想史」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 CONTEMPORARY CHINA REVIEW	６．最初と最後の頁 113-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田勉	4．巻 71
2．論文標題 『六論衍義大意』の思想史的考察	5．発行年 2022年
3．雑誌名 愛知教育大学研究紀要・人文社会科学編	6．最初と最後の頁 78-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川出良枝	4．巻 20
2．論文標題 「近代」の相対化――半澤思想史学の軌跡	5．発行年 2020年
3．雑誌名 政治思想研究	6．最初と最後の頁 398-399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田勉	4．巻 57
2．論文標題 「武威」の軍事国家のなかで学問が果たした積極的意義	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東亜文化（韓国・ソウル大学東亜文化研究所）	6．最初と最後の頁 59－86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊東貴之	4．巻 25
2．論文標題 「礼教」の浸透、一般化、発展-中国を中心とした現代東アジアの事例文化的発展（原題中国語の邦訳）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中国社会歴史評論	6．最初と最後の頁 215-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊東貴之	4．巻 62
2．論文標題 呂玉新『政治体制・文明・民族（エスニシティ）の辨別――徳川日本思想史』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本研究	6．最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川出良枝	4．巻 1143
2．論文標題 政治的寛容：ポリティーク派からピエール・ベールへ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 161-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川出良枝	4．巻 1143
2．論文標題 フィロロジーとフィロソフィーの幸福な結婚	5．発行年 2019年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 2－4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田勉	4．巻 5
2．論文標題 近世神道から国学へ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 皇学館大学研究開発推進センター紀要	6．最初と最後の頁 1－21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田勉	４．巻 14
２．論文標題 丸山眞男の江戸思想史像	５．発行年 2019年
３．雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	６．最初と最後の頁 25－36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊東貴之	４．巻 29
２．論文標題 戦後日本的陽明学研究史与荒木見悟的位置	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本学研究	６．最初と最後の頁 41－59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊東貴之	４．巻 なし
２．論文標題 明清思想与礼教――明清交替与東亜的思想世界	５．発行年 2019年
３．雑誌名 「文化詮釈与諸伝統之衝撃対話」国際学術研討会論文集	６．最初と最後の頁 1－20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川出良枝	４．巻 42
２．論文標題 ジョナサン・イスラエル著森村敏己訳『精神の革命―急進的啓蒙と近代民主主義の知的起源』書評	５．発行年 2018年
３．雑誌名 社会思想史研究	６．最初と最後の頁 169-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田勉	4．巻 5
2．論文標題 近世神道から国学へ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 皇學館大学研究開発推進センター紀要	6．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前田勉	4．巻 14
2．論文標題 丸山眞男の江戸思想史像	5．発行年 2019年
3．雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6．最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　12件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 伊東貴之
2．発表標題 中國新儒教思想史上的共同性與他者
3．学会等名 「清代政治視野下的經學研究」學術研討會（台湾・國立中央研究院）（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 伊東貴之
2．発表標題 当代日本比較哲学・思想研究与中国学（現代日本における比較哲学・思想研究と中国学）
3．学会等名 系列講座・朝向世界的日本哲学，中山大学哲学系・中山大学東西哲学与文明互鑑研究中心（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Yoshie Kawade
２．発表標題 Between Love of Country and Love of Humanity: Jean-Jacques Rousseau and Eighteenth-Century French Cosmopolitanism
３．学会等名 The 5th Colloquium of the East Asian Intellectual History Network　（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 川出良枝
２．発表標題 普遍君主政の超克：18世紀ヨーロッパにおけるコスモポリタニズム
３．学会等名 史学会（東京大学）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 伊東貴之
２．発表標題 欲望の調和から、合意と共生の理論へ―明清思想史の文脈から（原題中国語の邦訳
３．学会等名 第1回東亜学全国研究生研習会（台湾・中国文化大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 川出良枝
２．発表標題 自由の敵：暴君批判における古代と近代
３．学会等名 日本18世紀学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 川出良枝
２．発表標題 国家連合による平和 ：ジャン=ジャック・ルソーの世界秩序構想
３．学会等名 日韓政治思想学会・共同学術会議（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshie Kawade
２．発表標題 Adam Smith on Ethics and Economics
３．学会等名 Liberty Fund Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊東貴之
２．発表標題 明清思想与礼教―明清交替与東亜的思想世界
３．学会等名 「文化詮釈与諸伝統之衝撃対話」国際学術研討会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ITO Takayuki
２．発表標題 The Embodiment of the “Mind” in Neo-Confucianism
３．学会等名 International Society of East Asian Philosophy 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 川出良枝
２．発表標題 政治的寛容：ポリティーク派からピエール・ベールへ
３．学会等名 日本政治学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 前田勉
２．発表標題 公議輿論を生んだ読書会の公共性
３．学会等名 国際日本文化研究センター国際研究集会「世界史のなかの明治／世界史にとっての明治」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 ITO Takayuki
２．発表標題 The Embodiment of the “Mind” in Neo-Confucianism
３．学会等名 世界哲学大会(WCP2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊東貴之
２．発表標題 从東亜的“近世”到中国的“近代”：比較史与文化交流史的視点
３．学会等名 中国社会科学院哲学研究所（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊東貴之
２．発表標題 「東アジアの「近世」から中国の「近代」へ」
３．学会等名 NIHU・北東アジア研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊東貴之
２．発表標題 戦後日本陽明学研究史与荒木見悟的位置
３．学会等名 国際ワークショップ「明清禅儒の交渉」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 ITO Takayuki
２．発表標題 The Embodiment of the “Mind” in Neo-Confucianism
３．学会等名 チェコ科学アカデミー・東方研究所（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計14件

１．著者名 川出　良枝	４．発行年 2023年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 416
３．書名 平和の追求	

1．著者名 前田勉	4．発行年 2023年
2．出版社 思文閣出版	5．総ページ数 680
3．書名 江戸思想史の再構築	

1．著者名 伊東貴之、三浦徹他	4．発行年 2022年
2．出版社 集英社	5．総ページ数 808
3．書名 「経世学の展開と考証学の隆盛―明末清初期から清代の学術と思想」『アジア人物史 第7巻』	

1．著者名 バーリン、川出 良枝	4．発行年 2022年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 330
3．書名 「多元主義の思想史的起源」『マキアヴェッリの独創性 他三篇』	

1．著者名 伊東貴之、何建興、楊徳立主他	4．発行年 2022年
2．出版社 臺湾・國立中央研究院・中國文哲研究所	5．総ページ数 288
3．書名 「明清思想與禮教――明清交替與東亜的思想世界」『文化詮釋與諸種傳統之交渉』	

１．著者名 Yoshie Kawade, Michael Mosher, Anna Plassart	４．発行年 2021年
２．出版社 Bloomsbury Academics	５．総ページ数 279
３．書名 Liberty and the Rule of Law,” in A Cultural History of Democracy, vol. 4	

１．著者名 Tsutomu Maeda, Gary P. Leupp, De-min Tao	４．発行年 2021年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 1198
３．書名 The Tokugawa World (Heigaku and bushido)	

１．著者名 伊東貴之、前田勉	４．発行年 2021年
２．出版社 汲古書院	５．総ページ数 948
３．書名 東アジアの王権と秩序	

１．著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	４．発行年 2022年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 886
３．書名 東アジアにおける哲学の生成と発展	

１．著者名 前田勉	４．発行年 2020年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 562
３．書名 学制布告書の思想史的考察―近世と近代の連続と断絶（『「明治」という遺産』）	

１．著者名 Ryuzo Kuroki, Yusuke Ando, Yoshie Kawade他	４．発行年 2018年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 210
３．書名 “Peace through Commerce or Jealousy of Commerce? Jean-Bernard Le Blanc on Great Britain in the mid-18th Century,” in The Foundations of Political Economy and Social Reform	

１．著者名 上田　純子、公益財団法人僧月性顕彰会	４．発行年 2018年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 296
３．書名 幕末維新のリアル	

１．著者名 前田　勉	４．発行年 2018年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 448
３．書名 江戸の読書会	

１．著者名 坪井秀人、白石恵理、小田龍哉、伊東貴之他	４．発行年 2019年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 184
３．書名 「中国語圏における日本研究」（『日本研究をひらく』）」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	前田　勉 (Maeda Tsutomu) (30209382)	愛知教育大学・教育学部・特別教授 (13902)	
研究分担者	伊東　貴之 (Ito Takayuki) (20251499)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関